

データベースがサスペクトとしてマークされた場合

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[問題](#)

[解決策 1](#)

[第1のオプション](#)

[第2のオプション](#)

[解決策 2](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、サーバがデータベースにアクセスできない場合に Microsoft SQL Server がデータベースをサスペクトとしてマークする理由について説明し、この問題のソリューションを紹介します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Microsoft SQL Server バージョン 6.5 および 7.0
- Microsoft SQL Server クエリー ユーティリティ (バージョン 6.5 の ISQL_w またはバージョン 7.0 の Query Analyzer)

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Microsoft SQL Server バージョン 6.5 または 7.0 を実行する Cisco Intelligent Contact Management (ICM)
- Microsoft SQL Server がインストールされた Cisco ICM 製品を実行するすべてのハードウェア プラットフォーム

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

[問題](#)

Microsoft SQL Server はデータベースにアクセスできない場合、そのデータベースに疑わしいとマークを付けます。これは Microsoft SQL Server がシステム データベース テーブルの [Status] フィールドのビットの 1 つを設定することを意味します。データベースが疑わしいとマークされた場合、このステータスをリセットする必要があります。

[解決策 1](#)

サスペクト ステータスをリセットする方法については、Microsoft サポート技術情報を参照してください。疑わしいデータベースの状態をリセットするためには、追加のストアードプロシージャ `sp_resetstatus` を試します。まだ実行していない場合は、このプロシージャを作成するために、`instsupl.sql` を実行します。このスクリプトは `Mssql\Install` ディレクトリにあります。

注: `sp_resetstatus` の詳細については、Microsoft SQL Server のオンライン マニュアルで「Resetting the Suspect Status」のトピックを参照してください。

[第1のオプション](#)

この問題を解決する方法の 1 つは、疑わしいデータベースに対して、マスター データベースの `sp_resetstatus` を実行することです。次の手順を実行します。

1. [Start]、[SQL Server Program Group] の順にクリックします。
2. SQL Server バージョン 6.5 を使用する場合は、[ISQL_w] を選択します。また、SQL Server バージョン 7.0 を使用する場合は、[Query Analyzer] を選択します。
3. Logger に接続します。
4. クエリ ウィンドウで、次のように書き込み、実行します。Use masterGOsp_resetstatus <db_name>
5. ISQL_w または Query Analyzer を終了します。
6. [Start]、[SQL Server Program Group] の順にクリックします。
7. Microsoft SQL Server の関連サービスを停止し、再起動します。
8. データベースが使用できるかどうかを確認します。

[第2のオプション](#)

最初の方法で問題が解決しない場合は、[Status] フィールドのビットを手動で復元する必要があります。次の手順を実行します。

1. [Start]、[SQL Server Program Group] の順にクリックします。

2. SQL Server バージョン 6.5 の場合は [ISQL_w]、または Microsoft SQL Server バージョン 7.0 の場合は [Query Analyzer] を選択します。
3. Logger に接続します。
4. クエリ ウィンドウで、次のように書き込み、実行します。sp_configure "allow updates", 1reconfigure with overrideGoupdate sysdatabases set status = status ^ 256 where name = ""sp_configure "allow updates", 0reconfigure with overrideGo
5. ISQL_w または Query Analyzer を終了します。

データベースは Microsoft SQL Server を介して回復モードになっています。この処理に割り込むと、データベースは再度疑わしいとマークされることとなります。処理が完了するまで待機して、ICMDBA (以前の ICRDBA) によってロガーを同期します。問題が継続する場合はデータベースをドロップして再作成します。

注: この解決策は Microsoft SQL Server バージョン 7.0 では機能します。ただし、この解決策は SQL Server バージョン 6.5 で常に機能するとは限りません。

解決策 2

この問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. 『[Cisco CallManager: 管理レポートツール \(ART \) を使わない、コール詳細レコード \(CDR \) の手動削除](#)』の手順を使用して CDR を手動で削除します。
2. SQL Enterprise Manager に移動して、[Tools]、[SQL Server Query Analyzer] の順に選択します。注: 右のデータベース サーバから Query Analyzer を実行中であることを確認します。
3. [Query Analyzer] ウィンドウから、メインの [SQL Query Analyzer] ウィンドウに移動して、[File]、[Open] の順に選択します。
4. C:\Program Files\Cisco\Bin\CDR.sql を開き、[Query]、[Execute] の順に選択してクエリを実行します。 ツールバーの緑色の矢印をクリックし、F5 を押してクエリを実行することもできます。これにより、CDR データベースが作成されます。
5. SQL Enterprise Manager に移動し、[Microsoft SQL Servers]、[SQL Server Group]、[local]、[Databases]、[CDR]、[Users] の順に選択します。次に、[New Database User] を右クリックして選択します。
6. [Login name] プルダウン メニューから [CiscoCCMCDR] を選択し (CiscoCCMCDR が存在しない場合のみ)、[public] および [db_owner] がチェックされていることを確認します。
7. [Start]、[Programs]、[Microsoft SQL Server]、[Enterprise Manager]、[PUBLISHER]、[Databases] の順に移動します。 [CDR] を右クリックし、[All Tasks]、[Detach Database] の順に選択して、[OK] をクリックします。
8. [Start]、[Programs]、[Microsoft SQL Server]、[Enterprise Manager]、[PUBLISHER] の順に移動します。 [Databases] を右クリックし、[All Tasks]、[Attach Database]、[C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL\data\CDR.mdf <>Transaction Log == C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL\data\CDR_log.mdf <> Database Owner == PUBLISHER\Administrator] の順に選択します。
9. サーバを再起動します。

関連情報

- [Microsoft サポート技術情報 180500](#)

- [Microsoft サポート技術情報 165918](#)
- [ICMDBA ユーティリティ](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)